

「上斜筋麻痺の治療前後における視機能」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 29 年 6 月 19 日 ～ 平成 29 年 12 月 28 日

〔研究課題〕

上斜筋麻痺の治療前後における視機能に関する研究

〔研究目的〕

上斜筋麻痺は内下転障害により上斜視や回旋斜視を来し、複視を自覚しないように頭部を健眼側に傾け、いわゆる斜頸を呈する疾患です。先天症例は脊柱側湾症や顔の非対称が現れ、後天症例は複視のため、それぞれが日常生活に支障をきたします。当科では先天症例の治療法と問題点の研究結果を 1998 年に報告しましたが、今回は 1997～2012 年に当科を初診し、初回手術後 4 年以上経過観察出来た者の治療前後の視機能を検討します。

〔研究意義〕

上斜筋麻痺の治療前後における視機能を研究し、理解します。

〔対象・研究方法〕

1997～2012 年に本院眼科を初診した上斜筋麻痺患者の視機能データを、カルテから後ろ向きに調査・研究します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院眼科

〔個人情報の取り扱い〕

取り扱うデータは初診時年齢、性別、受診理由、患側、眼位、頭位、両眼視機能（治療前後）、治療方法、治療により改善出来た所見と改善出来なかった所見とし、すべて匿名で処理します。匿名化に際し、対応表は作成しません。データは可能な限り数値のみでインターネットと繋がっていない独立したコンピュータに電子データとして入力し、データファイルはパスワードを付け保管します。研究終了後にデータセット等は、倫理委員会事務局に提出します。保管期間は研究終了から 10 年間とします。保管期間終了後、TARC 事務局は情報漏えい・滅失・き損等に配慮して廃棄します。そののち、TARC 事務局は廃棄記録を作成し、保管します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 医学部眼科学講座・兼任准教授 林 孝雄

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院眼科外来

TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 30327]